

1. 実況上の着目点

① 日本の東を東へ移動する高気圧が、北～西日本に張り出している。この高気圧の縁辺を回る下層暖湿気の影響で、東～西日本の太平洋側では所々で雨が降り、東海道沖では激しい雨を解析。また、日本の南では高気圧南縁の吹送・吹続の長いやや強い東寄りの風が吹き、うねりを伴い波が高くなっている。

② 500hPa 5460m 付近のトラフに対応して、前線を伴った低気圧がアムール川中流域を東北東進。この低気圧と①

の高気圧との間で気圧の傾きがやや大きくなり、北日本ではやや強い風の吹いている所がある。

③ 500hPa 5820m 付近の正渦度極大域に対応して、朝鮮半島付近を低気圧が東北東進。低気圧に向かう下層暖湿気の影響で、東シナ海～対馬海峡付近では活発に発雷、猛烈な雨を解析。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

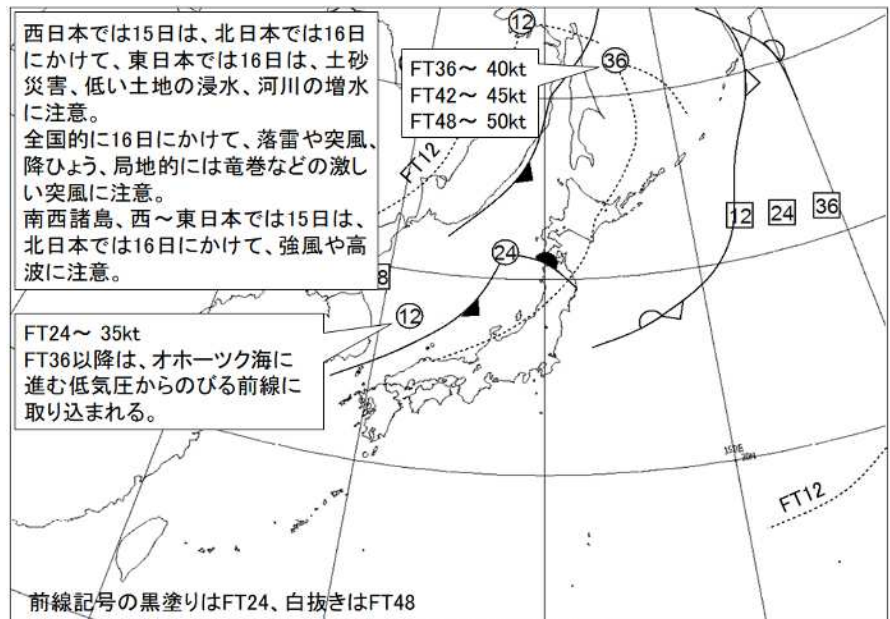
① 1項①の高気圧は、16日にかけて日本のはるか東へ移動する。高気圧の南縁では、吹送・吹続の長いやや強い東寄りの風が吹き、うねりを伴い波が高くなる。南西諸島と西～東日本の太平洋側では15日は、うねりを伴った高波に注意。また、南西諸島や西日本の太平洋側では16日にかけて、高気圧縁辺を回る下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となる所がある。落雷や突風に注意。

② 15日は、1項②の低気圧がオホーツク海へ進み、寒冷前線が日本海北部にのびる。また、1項③の低気圧が、前線を伴い日本海に進む。16日は、朝までに前線上のサハリン付近に発生する低気圧が、オホーツク海に進み、この低気圧からのびる前線が日本海の低気圧を取り込みながら北～西日本を通過する。これらの低気圧や前線に向かう下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となり、激しい雨が降って大雨となる所がある。西日本では15日は、北日本では16日にかけて、東日本では16日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意。西～北日本では16日にかけて、落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。また、低気圧の近傍では気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹き、波が高くなる所がある。北日本では16日にかけて、強風や高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場は GSM を基本、量予想や降水分布は MSM や LFM も参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ①雨量(06時からの24時間)：九州北部100mm。②波浪(明日まで)：北海道・東北・伊豆諸島・四国・九州北部・九州南部・奄美・沖縄3m。③高潮(明日まで)：東～西日本で注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。



主要じょう乱解説図